

モニタリング結果報告書

施設 神奈川県立神奈川近代文学館
指定管理者 (財) 神奈川文学振興会
施設所管課 県民局くらし文化部文化課

(平成 22 年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
4月	5月10日	5月17日	改善すべき業務等なし
5月	6月10日	6月15日	改善すべき業務等なし
6月	7月9日	7月15日	改善すべき業務等なし
7月	8月6日	8月13日	改善すべき業務等なし
8月	9月8日	9月15日	改善すべき業務等なし
9月	10月8日	10月15日	改善すべき業務等なし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

提案内容の概要

- ① より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。
(集客をめざす展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)
- ② インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。
- ③ 専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。
- ④ 館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。

<実施状況>

- ①・④ 4月 常設展 「中村光夫文庫」「新収蔵資料展」を実施
(22年度) 入場者数 928名(前年度1,186名との合計2,114名)
4月～6月 特別展^{※1} 「城山三郎展」を実施 入場者数 8,292名
6月～8月 企画展^{※2} 「開高健展」を実施 入場者数 6,682名
8月～9月 企画展^{※2} 「長崎源之助展」を実施 入場者数 2,957名
- ② 近代文学館のホームページで実施
ホームページアクセス件数 71,846件(うち蔵書アクセス件数 24,598件)
- ③ レファレンス^{※3}対応 153件

※1 特別展: 毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2回(春と秋)開催。

※2 企画展: 常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会で、展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。展覧会区分としては特別展に属する。

※3 レファレンス: 文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も数多く、公共図書館等他施設からの照会もある。

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額	
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入			
年間予算額	415,258	402,771	6,274	6,213	415,258	0
上半期計 (a)	188,692	179,024	4,896 (4,914)	4,772	167,682	21,009
下半期計 (b)						
4月	20,367	18,559	384 (739)	1,423	15,838	4,528
5月	33,366	30,267	1,501 (1,278)	1,597	27,031	6,335
6月	50,349	48,990	828 (729)	530	44,757	5,591
7月	30,326	28,562	1,265 (799)	499	29,121	1,204
8月	28,383	27,597	447 (639)	338	26,220	2,162
9月	25,899	25,049	469 (727)	381	24,712	1,187
合計 (a+b)	188,692	179,024	4,896 (4,914)	4,772	167,682	21,009

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
- 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

- ・前年同期と比較して特別展、夏の企画展共に利用料金収入の伸びが若干足りなかったが、年度収入予算のクリアに問題はないと考える。
- ・空調用熱源の点検や空調機周りの機器整備工事は展示室への影響が大きいため、事前に準備はしているが、工事そのものは中間期の10月以降に集中的に実施する。
- ・展覧会開催経費の精算手続の遅滞（履行後の精算、請求書の未達等）により、執行時期を調整。特に資料輸送費は、上半期が運送会社の繁忙期にあたるため、精算手続や処理が滞ることが多く、例年執行が遅れ気味である。パネル制作などにも同様の傾向が見られる。
- ・第2期指定管理プロポーザル提案に伴い、機器更新を中止し再リースに切り替えた。

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	31,915人	35,437人	△9.9%
下半期計 (b)	人	人	%
4月	2,910人	6,968人	△58.2%
5月	8,240人	8,095人	1.8%
6月	5,529人	5,451人	1.4%
7月	8,174人	5,892人	38.7%
8月	3,351人	4,052人	△17.3%
9月	3,711人	4,979人	△25.5%
合計(a+b)	31,915人	35,437人	△9.9%

半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

4月末から6月上旬まで開催した「城山三郎展」は、熱心な読者を中心に8,000人を超える入場者を得られた。6～7月の「開高健展」は前年開催の「中島敦展」と比較し、入館者数が約3割ほど増加した。開高健記念会やサントリー等の協力により、少ない経費で多くの動員を図ることが出来た。8～9月の「長崎源之助展」は、例年夏に開催している児童文学展覧会の一つとして、井土ヶ谷小学校をはじめ横浜市に根ざした文庫活動に関わった方々から大変好評であった。長崎源之助は横浜の出身、在住でゆかりの深い作家であり、当館ならではの企画だったが、大きな集客には直接結びつかなかった。この点を省察し、次年度以降の夏期児童文学展では観客面にも一定の配慮をした企画を実施したいと考えている。

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	0	0	0	0		
5月	0	0	0	0		
6月	0	0	0	0		
7月	1	0	0	0		1
8月	0	0	0	0		
9月	0	0	0	0		

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	低温のために体調を崩した。設定温度が不適切ではないか。	空調ダクト内部にセンサーを追加し、制御方法も見直した結果、吹出口から急激な冷温風が出にくい仕様に変更した。
職員対応		
事業内容		
その他		

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

* 該当なし

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

（ 事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。 ）

* 該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 上（下）半期の所見等

（ 1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。 ）

指定管理者	<p>（特別展について）</p> <p>城山三郎は当財団発足以来、理事を務め、戦後転居して以降、終生茅ヶ崎に住んだ神奈川にゆかりの深い作家でもある。「城山三郎展」は、65 歳以上の高齢者比率が4割を占め、作家と同時代を歩んだ戦前・戦中派を含め昭和世代を中心に共感・感動を喚起する展覧会として来館者の評価は高かった。一方高校生以下の入場者数は2%と通常の半分以下の割合に留まっている。経済小説など若年層にあまりなじみがない分野をいかにアピールしていくかに課題を残した。今後は新世代にも足繁く通ってもらえるように、QRコードや携帯サイトなど新メディアによる広報にも力を注ぎ、若者向けのコンテンツの整備を図っていきたい。</p> <p>（企画展について）</p> <p>11年前に開催した「開高健展」と比べ、今回は新資料や前回展示されなかった資料が多数展示され、開高の生涯と文学を改めて見つめ直す絶好の機会となった。茅ヶ崎市開高健記念館を運営する開高健記念会と共催し、開高にゆかりの深い企業等の協賛により低予算で効率よく実施出来た模範的な例となった。今後もこうした手法を重視したい。長崎源之助展は学生の割合が10%と非常に高い数字を示した。横浜市内の小中学校へのチラシ配布が横浜ゆかり作家ということもあって効果を発揮し、また児童関係団体への精力的な働きかけが、学生の高比率という成果をあげた一因になったと考える。</p> <p>（その他）</p> <p>第三セクター事務事業評価で最上位ランクを示す「充実」の評価を得た。いずれも財団発足以来の資料の収集、整理、保存、公開を基盤とする多方面の事業が高く評価された結果と受け止めている。</p>
施設所管課	<p>展覧会については、知名度の高い作家を取りあげるとともに、講演会等の関連イベントを充実させ、来館者増に取り組んでいる。</p> <p>館の運営管理については、館への直接苦情が1件であり、速やかに対処していることから、概ね良好になされている。</p> <p>引き続き、利用料金収入の安定と経費等を工夫した運営に努め、文字・活字文化の振興に寄与することを期待する。</p>